

※教材は各学校でアレンジしてご利用ください。

授業科目名	臨床推論	単位数	対象学年	担当教員
科目名の英文	Clinical reasoning	2	2	元杏林大学医学部付属病院看護部長 道又 元裕
授業のねらい		<p>臨床における看護活動を実践するためには、患者個々に相応した看護過程を展開する必要がある。看護過程は、専門的知識体系に基づき、ヘルスケア、看護ケアを必要としている対象者個々に的確、適切に提供するための連続的な系統的思考と組織的実践である。また、精度の高い看護過程を展開するには、普遍的に誰もが納得できる客観的かつ信頼性のあるアセスメント、問題の明確化、問題を改善するための計画、ゴールの設定、実践が望まれる。</p> <p>これら一連の過程および総合的な判断の精度を高めるための思考方法の一つに臨床推論がある。臨床推論は、患者の症状などから健康状態、健康に関する反応を把握、理解し、患者個々に応じた看護過程を客観的に展開するための拠り所として必要不可欠な連続的思考プロセスである。その臨床推論を学ぶことによって、①患者の有する健康問題を発見する確率の向上、②臨床判断能力の向上、③患者の健康問題を高い精度で判断、④緊急度、重症度、要介入度などの優先度の判断、⑤患者の有する健康問題を多角的に検証、⑥患者の健康問題に適切に速やかに対応、⑦患者の健康問題の客観的言語化、⑧医師への適切なレコメンデーション（適正な情報提供）、⑨看護ケア実践の質向上が期待できる。</p> <p>本科目では、臨床推論の知識を総論、各論に構成し、臨床推論を修学するに必要な基本的知識を学習したうえで、臨床で遭遇する代表的患者像をシミュレーション事例として学修し、学びを深めていく。本科目の受講を通して、患者の健康状態における問題の明確化とそれに対する適切な看護ケアの選択を客観的思考する方法を学ぶとともに、看護を学問的に探求することをねらいとする。</p>		
学生の皆様へ		<p>臨床における看護を実践するためには、患者個々に対応した看護過程を行う必要がある。患者個々に実践する看護過程は、患者の健康に関わる身体的、精神的、社会的因素を統合的に客観的なアセスメント（判断）し、実践しなければならない。そのアセスメントの精度を高めるための一つの方法に臨床推論がある。</p> <p>臨床推論は、患者の症状などから健康状態、健康に関する反応を把握、理解し、患者個々に応じた看護過程を客観的に展開するための根拠を明確化するために必要な思考方法である。臨床推論を学ぶことによって、患者が有する健康問題の発見や効果的な看護を客観的に考えられるようになることが期待できる。</p> <p>本科目では、臨床推論に関する基本的知識とそれを応用した事例シミュレーションによる看護展開の考え方を学ぶ。</p>		
具体的な到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1.臨床推論の概念と全体像が理解できる 2.看護と臨床推論との結びつき、関係性が理解できる 3.臨床推論を展開するための理論が理解できる 4.論理的思考による問題発見・解決方法が理解できる 5.看護過程の構造（データ、情報、アセスメント、問題抽出、問題解決）が理解できる 6.臨床推論思考と看護過程の関係性が理解できる 7.看護判断のための臨床推論思考の活用の仕方が理解できる 8.客観的理由付け、科学的根拠、仮説、推理、臨床知について理解できる 9.対象に納得できる客観的説明（報告、伝達）の方法が理解できる 10.アセスメントと臨床推論の関係が理解できる 11.インタビューなどを通じて臨床推論を活用したアセスメントが理解できる 12.臨床推論を活用したバイタルサインの生理とアセスメントが理解できる 13.臨床推論を活用したフィジカルイグザミネーションとアセスメントが理解できる 14.患者が有する症状について臨床推論を活用したアセスメントが理解できる 15.検査から得られたデータと情報を臨床推論を用いてアセスメントする 16.臨床推論を用いて検査から得られたデータと情報をアセスメントする 17.緊急度と重症度の違いと治療・ケアの優先度について理解できる 18.臨床推論を用いてケアの選択と根拠が理解できる 19.客観的な看護記録の方法について理解できる 20.臨床推論を用いた事例に対する看護展開が理解できる 		

授業の日程	学修テーマ	学修内容	時間数
		1.臨床推論総論	1コマ
		2.臨床判断のための推論思考（問題発見、問題解決方法のための論理的思考）	1コマ
		3.看護過程の構造と臨床推論（データ、情報、アセスメント、問題抽出、問題解決）	1コマ
		4.看護判断と臨床推論（客観的理由付け、科学的根拠、仮説、推理、臨床知）	1コマ
		5.納得を得る客観的説明、客観的報告・伝達	1コマ
		6.インタビュー（問診）とアセスメント、臨床推論	1コマ
		7.バイタルサインの生理とアセスメント、臨床推論①	1コマ
		8.バイタルサインの生理とアセスメント、臨床推論②	1コマ
		9.フィジカルイグザミネーションとアセスメント①	1コマ
		10.フィジカルイグザミネーションとアセスメント②	1コマ
		11.症状とアセスメント、臨床推論①（頭・頸部）	1コマ
		12.症状とアセスメント、臨床推論②（胸部）	1コマ
		13.症状とアセスメント、臨床推論③（腹部）	1コマ
		14.症状とアセスメント、臨床推論④（四肢、その他）	1コマ
	臨床推論	15.検査とアセスメント、臨床推論①	1コマ
		16.検査とアセスメント、臨床推論②	1コマ
		17.検査とアセスメント、臨床推論③	1コマ
		18.緊急性と重症度の臨床判断	1コマ
		19.ケアの選択と根拠（客観的理由付け）①	1コマ
		20.ケアの選択と根拠（客観的理由付け）②	1コマ
		21.客観的情報伝達（記録含む）	1コマ
		22.事例による臨床推論①（事例提示、シンキングワーク、解説）：内科系①（呼吸）	1コマ
		23.事例による臨床推論②（事例提示、シンキングワーク、解説）：内科系②（循環）	1コマ
		24.事例による臨床推論③（事例提示、シンキングワーク、解説）：内科系③（消化器）	1コマ
		25.事例による臨床推論④（事例提示、シンキングワーク、解説）：内科系④（脳・神経）	1コマ
		26.事例による臨床推論⑤（事例提示、シンキングワーク、解説）：外科系①	1コマ
		27.事例による臨床推論⑥（事例提示、シンキングワーク、解説）：外科系②	1コマ
		28.事例による臨床推論⑦（事例提示、シンキングワーク、解説）：急変事例	1コマ
		29.事例によるチーム医療⑧（患者、関係医療者）プロセスと臨床推論：総合事例まとめ	1コマ